令和５年度

「いわての復興教育」

実践事例集

令和６年３月

岩手県教育委員会

「いわての復興教育推進事業（震災学習列車活用スクール）」実践事例

学校名：岩手県立久慈拓陽支援学校

Ⅰ　事業の概要（地域の実情含む）

1　学校概要

本校は久慈市の中心部より北にあり、市街地よりも高台にある侍浜に位置している。東日本大震災や台風での大きな被害はなかった。小学部 30 名、中学部 15 名、高等部 29 名が在籍している。寄宿舎を併設しており、児童生徒は久慈市、洋野町、軽米町、普代村、宮古市から通学している。東日本大震災や豪雨災害で自宅が被災した児童生徒もおり、学校では年に数回の避難訓練や非常食体験などを通して防災意識を高めている。

2　対象生徒について

今回は高等部３年生を対象に、震災復興学習を実施した。生徒たちは震災当時５・６歳で就学前だった。自宅が全壊した生徒もいるが、当時の記憶はあまり鮮明でなく、防災意識は高いとは言えない。

3　学習のねらい

震災学習列車やもぐらんぴあでの学習を通して、震災当時の様子や復興状況について理解し、自分にできる災害時の備えや行動について考えることをねらいとした。

Ⅱ　取組の概要

1　事前学習

三陸鉄道及びもぐらんぴあの被災状況と復興状況をタブレットを使い、調べ学習を行った。一人ずつ自分の知りたい場所について学習シートにまとめた。また、質問内容を考え、しおりに記入を行った。

2　「震災学習列車」での学習

（1）ガイドによる説明

三陸鉄道の震災学習列車「田野畑駅～久慈駅」の区間に乗車し、ガイドによる説明を聞きながら、三陸鉄道の成り立ちや被災状況、復興までの歩みについて学んだ。また、災害時に困らないための備えや避難場所の確認の大切さを学んだ。

ア　三陸鉄道の成り立ち

三陸鉄道は明治の地震をきっかけに地元の人々の強い要望があったが、ずっと実現しなかった。しかし、日本で初めての第３セクターとして岩手県と企業が協力して作られた。

〈ガイドの説明の様子〉

イ　震災当時の様子

震災時はディーゼルエンジンで稼働する強みがあり、震災時も電気と暖房、トイレが使え、自動販売機があることなど（旧車両）を生かしたことを知ることができた。

ウ　避難訓練の重要性

野田村の保育園の事例を説明いただき、お昼寝の時間が一番危ないことを想定して、毎月避難訓練を行っていたため、100 人以上の方が助かったことを聞き、避難訓練や想定の大切さを知ることができた。

エ　防潮堤の役割

防潮堤は津波の想定よりも低く作られている。防潮堤と線路の盛り土により、避難する時間を作る工夫を行っていることを知った。

オ　津波てんでんこ

「各自で判断して、てんでばらばらに逃げる」と津波てんでんこについて知り、自分の命を守る行動を最優先することについて知った。また、家族が別々に避難し、お互いを探して被害に遭わないために、避難場所の確認や集合場所の目印を決めておくことの大切さを知ることができた。

カ　避難時に気を付けること

災害で停電になった後、再通電の際に漏電による火災が発生することがあるため、避難時にブレーカーを落とす対策が必要であることを知った。

（2）質疑応答

事前学習で調べた被災状況や復興状況から質問を考え、当時の気持ちや復興にかかった費用などについて質問を行った。

3　「もぐらんぴあ」での学習

（1）ガイドによる説明

石油備蓄基地の施設の説明も含めた「もぐらんぴあ」の被災状況や再建までの歩みについて学んだ。また、施設の津波対策についても学んだ。

ア　津波の動きと被害

久慈市の衛星写真を見せていただき、震源地付近の津波発生場所の南東から津波が入ってきたこと、湾を回ってもぐらんぴあの北側から津波が襲ったため、建物の側面の窓や屋根の被害があることを知った。久慈市は波が半島に当たり、勢いが弱まったことで被害が大きくならなかったことを知った。

〈ガイドの話を聞く様子〉〈被害を受けたトイレ〉

イ　避難の仕方

もぐらんぴあや周辺施設では、避難訓練を行っていなかったが、施設の裏にある高台に避難階段を使い、全員避難することができた。津波が来たときは近くの高いところに逃げることを知った。津波が来た場所まで階段を上り、津波の高さを体感した。

（施設の方が使用した階段を上る様子）

ウ　生き物の被害

もぐらんぴあの生き物はほとんどがいなくなってしまったが、数種類は生き残った。生き残った生き物は八戸市のマリエントに預けたことを知った。施設の建て直しが終わるまで「まちなか水族館」を行ったことを知った。

エ　津波対策

もぐらんぴあでは、津波がトンネルの中に入ったことによる被害があったため、トンネルの入り口に防潮扉を設置し、津波発生時には自動で閉めることができるようになっていることを知った。

（2）質疑応答

事前学習で調べた被災状況や復興状況から質問を考え、復興にかかった費用や生き物などについて質問を行った。

4　事後学習

震災学習列車やもぐらんぴあで学んだことで印象に残った話についてグループに分かれてポスターを作成した。また、三陸鉄道の貼り絵を行い、避難場所を家族で確認すること啓発するポスターを作成した。

〈生徒がまとめたポスター〉

5　PTA レクでの発表会

学習でまとめた内容について、発表ビデオを作成し、保護者及び職員に対して発表を行った。

Ⅲ　取組の成果と課題

1　成果

震災についての被害を調べることで当時の被災状況や現在の復興状況を知り、街の変容を知ることができた。震災学習列車では、震災に対する備えについて、避難訓練や家族での確認が大事であることを改めて確認することができた。もぐらんぴあでの学習では、津波の動きを知り、実際に階段を上ることで津波の高さを体感し、高いところに逃げることの大切さについて実感を持って学ぶことができた。

2　課題

次年度以降も継続的・持続的に取り組んでいくためには、対象となる生徒の実態に応じて内容を検討する必要がある。同時に生徒の被災経験や心理的負担も十分に考慮すべきである。